

3

褥瘡予防・管理ガイドラインについて

日高正巳

兵庫医療大学 リハビリテーション学部

Point

- 1 褥瘡予防・管理ガイドラインで用いられているアルゴリズムについて理解しましょう。
- 2 理学療法に関する CQ と推奨度について理解しましょう。
- 3 褥瘡予防・管理ガイドラインを踏まえた理学療法を実践しましょう。

はじめに

診療ガイドラインは「診療上の重要度の高い医療行為について、エビデンスのシステマティックレビューとその総体評価、益と害のバランスなどを考慮して、患者と医療者の意思決定を支援するために最適と考えられる推奨を提示する文書」¹⁾と定義されています。現在、褥瘡は、医療機関における質指標の1つとされており、また、一度形成されるとその治療に時間と費用がかかることから予防に重点がおかれるようになってきています。そのため、各医療機関に

おいて、褥瘡対策チームとして「予防」ならびに「治療」の取り組みが展開されています。

本章では、日本褥瘡学会が公表している「褥瘡予防・管理ガイドライン（以下褥瘡 GL）」²⁾について、理学療法と関わりの深い部分を中心に解説します。なお、「褥瘡予防・管理ガイドライン」は論文^{2, 3)}として発表されており、さらに、臨床でより役立たせて頂くために褥瘡 GL を解説した「褥瘡ガイドブック」⁴⁾が発刊されています。また、2015年には第4版が示されることになっています。

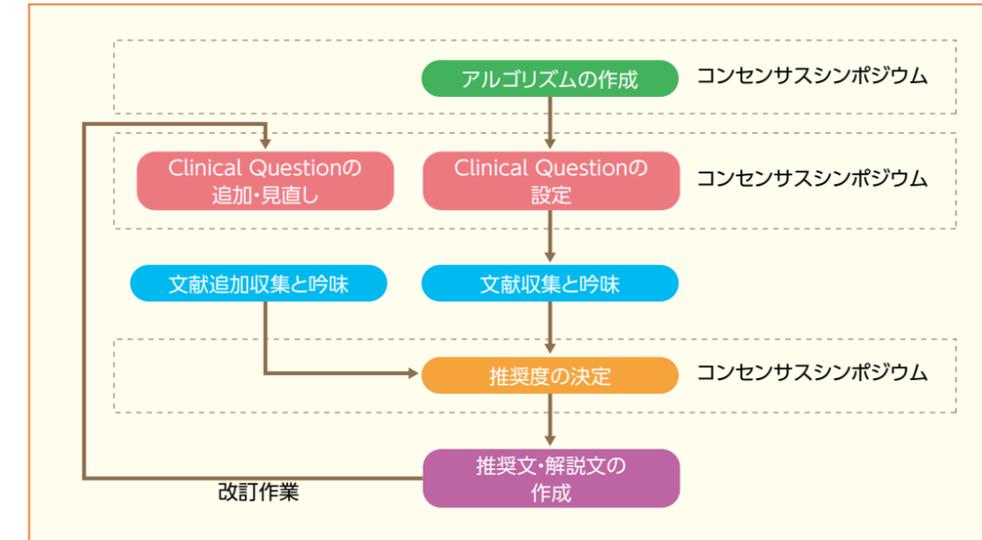


図1 褥瘡予防・管理ガイドライン作成ならびに改訂プロセス

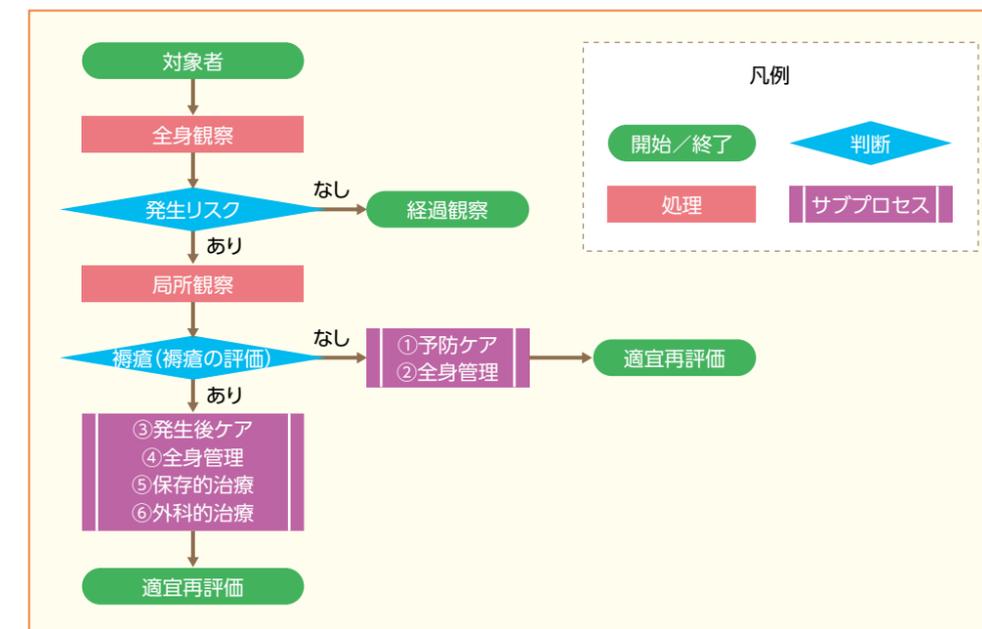


図2 アルゴリズム (全体版)²⁾

褥瘡 GL の作成プロセス

褥瘡 GL は、図1に示すプロセスにて作成され、改訂されています。第2版⁵⁾作成時に検討されたアルゴリズムを踏襲し検討がなされています（現在第4版に向けた検討が進められています）。アルゴリズムの作成、Clinical Question の設定、推奨度の決定という各段階において、日本褥瘡学会学術集会の中でコンセンサスシンポジウムを

開催し、学会員の意見を聞きながら作成が進められました。

アルゴリズム

褥瘡 GL は、アルゴリズム（図2）に従って読んでいくと理解しやすくなります。最初に、対象者の全身観察を行います。その結果、褥瘡の発生リスクがなければ経過観察となりますが、発生リスクがある場合には、局所観察へ